



2019年4月12日

各 位

会社名 株式会社幸和製作所  
 代表者名 代表取締役社長 玉田 秀明  
 (コード番号: 7807 東証 JASDAQ)  
 問合せ先 取締役管理本部長 大井 実  
 (TEL. 072-238-0605)

## 個別業績と前期実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2019年2月期の個別業績につきまして、前期実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 2019年2月期通期個別業績と前期実績値との差異

	売上高	営業利益又は営業損失 (△)	経常利益又は経常損失 (△)	当期純利益又は当期純損失 (△)	1株当たり 当期純利益 又は1株当たり 当期純損失 (△)
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績(A)	4,294	548	474	377	106.52
当期実績(B)	3,973	△299	△122	△218	△53.46
増減額(B)-(A)	△321	△847	△596	△596	—
増減率	△7.5%	—	—	—	—

(注) 1. 当社は、2017年7月14日開催の取締役会決議により、2017年8月4日付で普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っておりますが、前期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益金額を算定しております。

2. 当社は、2018年1月18日開催の取締役会において、2018年3月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行う旨を決議しておりますが、前期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益金額を算定しております。

#### 2. 差異が生じた理由

売上高につきましては、2017年11月に発売いたしましたロータ型歩行車「Michele (ミケーレ)」の自主回収にともなう対応等のため営業活動が大きく制約された影響等もあり、前年比7.5%減の結果となりました。

利益面におきましては、粗利益率の高い歩行車の売上構成比が低下したことや、体制強化を目的とした人件費の増加やロボット開発にかかる試験研究費の増加などにより営業損失に転じ、営業外収益に連結子会社からの受取配当金を計上したものの、製品自主回収関連費用の特別損失計上などが影響し、経常損失および当期純損失を計上する結果となりました。

以上